

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 増田 誠宏

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田 勝彦

経理責任者氏名 増田 誠宏

期 間	令和6年9月30日（月）
用 務 先	フリースクール YOLO 安芸高田市吉田町吉田 1190-3
用 務	フリースクール視察
概要及び所見 （目的、参考 にすべき事 項、提言、活用 策等）	【概要・抜粋】 フリースクール「YOLO」は、「一度しかない人生を、思いきり楽しむ」を理念とし、子どもと大人がつながる学び舎として、自分らしくいられる居場所を提供することを目的に設立された施設である。学校や家庭とは異なる、子どもたち自身がつくる自由な空間となっており、昼食の食材についても自分たちで考え、調達するなど主体的な取り組みが行われている。 訪問時には、フリースクール代表より、設置に至った経緯や目的、施設の運営状況、子どもたちの様子などについて詳細な説明を受けた。また、スクールの基本情報として、料金体系、開所日時、対象年齢等の説明もあった。学校との連携もなされており、当該施設への通所が出席扱いとなるケースもあるとのことである。 一方で、施設運営においては、運営資金や人員の確保などが大きな課題であるとされており、継続的な支援体制の必要性が感じられた。 【所見】 本施設は、学校だけでは対応しきれない子どもたちの多様なニーズに応える居場所として、重要な役割を果たしている。今後、本市においても、子どもたちが安心して過ごせる多様な居場所づくりは必須であり、フリースクールはその一つの有効な選択肢であると考えます。

	しかしながら、民間による運営には限界もあり、資金面・人材面での安定した基盤づくりが課題である。行政として、これらの民間施設にどのように関わり、支援していくかが今後の大きな検討課題である。
--	--

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 徳岡真紀

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田勝彦

経理責任者氏名 増田誠宏

期 間	令和 6 年 9 月 30 日
用 務 先	フリースクールYOLO (安芸高田市吉田町吉田1190-3)
用 務	不登校支援とこどもの居場所について
概要及び所見 (目的、参考にすべき事項、言、活用策等)	広島県安芸高田市吉田町にある「フリースクール YOLO」は、小中学生を主な対象とした自由な学びと実践の場である。子どもたちは日々の活動を通じて、自分の強みを発見し、人とのつながりを大切にしながら、たくましく生きる力を育んでいる。 活動の拠点は、築 88 年の古民家「和話(wawa)」。この場所は子どもたち自身が修繕し、居心地のよい空間として整えている。中庭や茶室のある古民家で、学びや生活の場として日々活用されている。 YOLO の基本理念は「みんなの権利」を尊重することにある。子どもたちは自分や仲間の命・心・体を大切に、自分の「好き」を大事にしながら、自分たちでルールや居場所をつくる。正解や「当たり前」にとらわれず、一人ひとりの思いや個性を尊重する姿勢が貫かれている。 毎日の活動は朝のミーティングから始まり、その日の予定を自分で立てる。午前・午後の活動内容は自由に選べ、学習や調理、体験活動、プロジェクトなど多様である。学習時間には学校の課題や自分の興味に応じた探究学習に取り組むことができ、大人や学生ボランティアのサポートも受けられる。

特徴的なのが食育活動で、昼食は毎日子どもたち自身がメニューを決め、買い出しから調理、片付けまでを行う。衛生管理も自分たちで話し合いながらルールを作り、実践している。

年に数回、大規模なプロジェクト(映画上映会、イベント、本の出版など)にも挑戦しており、地域の大人や専門家とチームを組んで活動することで、社会と関わる力を育てている。

開校日は月・火・金が 9 時～16 時、水曜日は 12 時～17 時(第 3 水曜休み)。木・土・日・祝日は休みだが、夏休みなどの長期休みも通常通り活動している。

利用料は、入会金 15,000 円、施設使用料 2,000 円(年 1 回)、月謝 20,000 円のほか、回数券(10 回 15,000 円)や単発利用(1 回 2,000 円)、体験参加(1 回 500 円、3 回まで)などがある。

YOLO は、大人が一方向的に教えるのではなく、子どもたちと対等な「仲間」として関わる姿勢を大切にしており、一人ひとりが自分らしく成長できる環境づくりが実践されている。

本市にはまだフリースクールは数件しかなく、不登校などの子どもたちの居場所となる選択肢は非常に少なく、教育機会均等法から考えると、学校に行くことのできない子どもたちが学びの機会を確保でき、自分の得意なことを発揮できる居場所を大至急確保する必要があると考える。それにあたっては国も自治体もフリースクール設立や運営への支援が緊急だと思うが、まだ国の補助金メニューにもフリースクールの設立や運営などの補助がないのが現状である。が、安芸高田市は今年度から運営への補助が始まったとのこと。本市でも立ち上げから運営、また、利用者への補助も考えていく必要があると思う。